

日韓関係の諸問題を通して学ぶ社会科学学習の工夫 ～竹島問題を越えて日韓のよりよい関係を築いていくために～

大 島 悟

1. はじめに

昨年3月16日に島根県議会において、「竹島の日」条例が制定された。それとともなって、島根県と長年交流を続けてきた慶尚北道が島根県との姉妹提携の破棄を通告してくるなど、従来から続けてきた日韓交流が中止になるような動きが相次いでいる。昨年は日韓国交正常化40周年の区切りの年であり、相互の交流事業や文化紹介事業を通じて両国民の相互理解と友情を深めることをめざす「日韓友情年2005」として位置づけられており、そういったなかでの交流中止の動きは非常に残念なことである。これからのよりよい日韓関係を築いていくために、解決していかなければならない課題は多いが、その第一歩はお互いの国の文化をよく理解し、それを尊重し合う姿勢を培っていくことである。島根県においても、日韓合同授業研究部を中心に日韓の相互理解を図る社会科の開発に取り組み、小学校を中心に多くの実践を積み重ねてきた。また本校に隣接する島根大学教育学部附属小学校は釜山教育大学附属小学校と長年に渡る交流を積み重ねてきており、韓国との相互交流を元にした実践も行われている。こういったなかで、中学校社会科において韓国をどのように取り上げ、学習していくのかということが、改めて重要になってきているように思われる。

ただ中学校社会科における問題として、韓国や竹島に関する学習はあまり行われていないのが現状である。韓国の中学生が学ぶ時間に比べると圧倒的に少ないであろう。歴史的分野においては、日本とのかかわりのなかで韓国併合や植民地支配のようすなどについては学習するが、韓国側の歴史教科書などと比較しても、記述内容は非常に少ない。また地理的分野においては、「世界の国の調査」の学習があるが、学習対象として「韓国」を取り上げている中学校は少なく、学校によっては韓国について、ほとんど学習しない中学校も多い。(資料1参照) まし

〈資料1〉

| 取り上げる国 | 校数 |
|-------------------|-----|
| アメリカ合衆国 | 46校 |
| フランス | 19校 |
| 中華人民共和国 | 18校 |
| 大韓民国 | 5校 |
| マレーシア | 5校 |
| ドイツ | 3校 |
| オーストラリア | 2校 |
| インド、インドネシア、オランダなど | 1校 |

(平成15年度に島根県社会科教育研究会中学校部で実施したアンケート結果より～回答50校中の結果～)

てや竹島問題については、地理的分野の「日本の位置と範囲」の学習や、公民的分野の「主権国家」の学習などで扱うが、領土問題の存在について北方領土問題や尖閣諸島の問題と並列的に扱う場合が多く、教科書での記述も非常に少ない。今回この実践研究を行うにあたっての、自分自身の問題意識として、まず第一に上げられるのは、韓国や竹島に関するこのような状況に起因するものである。全国的にも竹島が大きく取り上げられるようになった現状において、竹島問題をかかえる島根県の中学校において、竹島の問題を扱う実践を積み重ねていかなければならないということである。島根県ほど竹島のことを考えている都道府県はないであろうし、その島根県にある中学校だからこそ、一歩ふみこんで竹島の問題についても取り上げていかなければならないのではないだろうか。

もう一つの問題意識として、様々な問題を乗り越えて日本と韓国がよりよい関係を築いていかなければならないという自分自身の思いである。日韓関係のよりよい関係づくりは、今までの実践のなかでも常に意識してきたテーマであり、平成10年には、当時の中学校2年生の韓国に対する意識をもとに、実践をまとめた。当時は金大中大統領が就任し、日韓のワールドカップ共同開催が決定した頃であり、日韓関係に良い意味での変化が期待されていた時期であった。実際に、ワールドカップやその後の韓流ブームで、日韓双方のお互いの国に対する意識も変化したのではないかと思う。竹島の問題やその他の日韓関係の様々な問題は、それを乗り越えてよりよい関係を築いていかなければならない

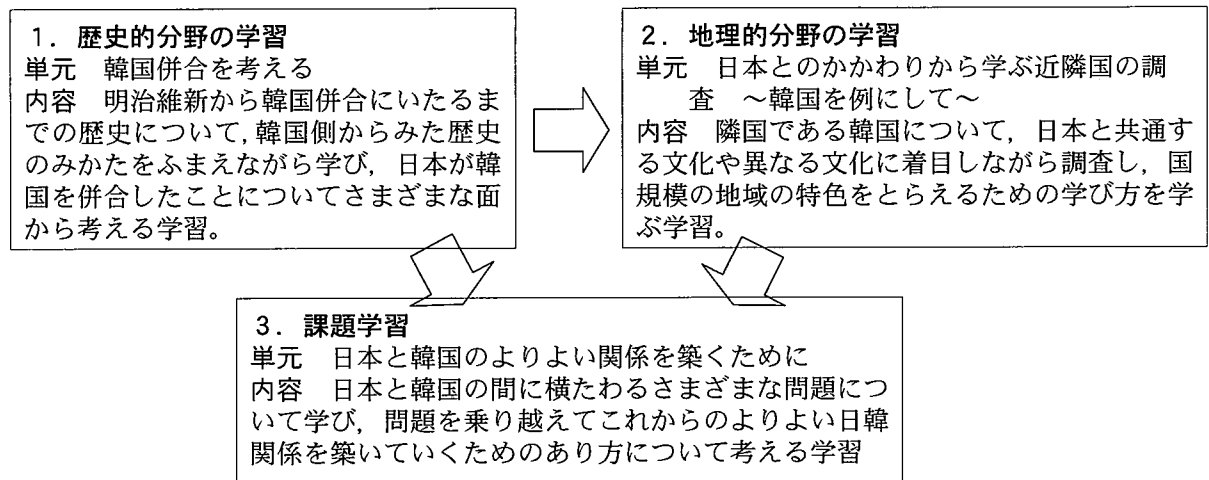
という文脈のなかで学習していかなければならないと考える。

このような二つの問題意識のもと、最終的に日本と韓国のよりよい関係を築くために、歴史的分野や地理的分野との関連を図りながら、一年間にわたって行ったのがこの実践である。それでは実践の概要について紹介していきたい。

2. 学習全体の流れとポイント

最終的に竹島問題も取り上げながら、日本と韓国のよりよい関係を考えていくために、2年生で学習する歴史的分野、地理的分野において行う学習をふくめて、全体の学習を構成した。それを図に表すと次のようになる。

図 学習の全体構想図



歴史的分野の学習と地理的分野の学習を課題学習にいたるまでの基盤になる学習としてとらえ、それぞれの学習において、課題学習につなげていくための工夫をしていかなければならないと考えた。歴史的分野と地理的分野の学習の工夫のポイントは次の通りである。

(1) 歴史的分野の学習のポイント

日本と韓国の上に横たわる問題として、もちろん竹島の問題は非常に大きな問題であるが、そのことと関連して大きな問題になっているのが、両国間の歴史認識にかかわる問題である。明治維新以降、近代国家を建設し、日清・日露戦争を経て韓国併合にいたるまでの歴史は、日本側からみた認識と韓国側からみた認識とはずれている面がある。たとえば竹島の問題にしても、日露戦争の最中に日本が不当に領土に編入したと、韓国の歴史教科書のなかで述べられているが、日本の教科書にはまったくふれられていない。このような認識の違いについて、ある程度踏み込んでいかなければならないと考える。そのための方策として次のような場面を歴史的分野の学習に取り入れることとした。

- 韓国側の教科書に書かれている記述を紹介し、日本の教科書の記述と比較しながら考える場面。
 - 韓国の国際交流員の方から、韓国側からみた歴史について、わかりやすく解説してもらう場面
- 最終的には、生徒一人一人が、当時のさまざまな情勢をふまえながら、日本が韓国を併合したことについて判断し、自分の考えをまとめた。

(2) 地理的分野の学習のポイント

日本に一番近い韓国のことをさまざまな面から理解していくことは、これからの日韓関係を考える上で重要であることはいままでもない。国規模の地域の特徴をとらえる視点として、自然、産業、人口、地域間の結びつき、生活・文化などの視点があるが、特に今回は生活・文化を調査の中心にすえることとした。国際交流の第一歩はお互いの国の生活や文化を理解し、それを尊重し合うことである。また、日本の生活・文化と比較しながら考えることができる点においても、

生徒の関心・意欲を喚起するのに効果的であると思われる。

これらの学習をふまえて、最終的に課題学習があるわけである。それでは、歴史的分野の学習と地理的分野の学習の詳細について、述べていきたい。

3. 単元 韓国併合を考える～歴史的分野

(1) 学習の基盤

歴史的分野において、近現代の歴史学習は、現在の日韓関係にも大きな影響を与えており、これからの日韓関係を考える上でも重要な意味を持っていると考える。1876年の日朝修好条規以来、日本は朝鮮に対する影響を強め、日清戦争、日露戦争を経て韓国を併合し、36年間にわたる植民地支配を行った。

本単元では、韓国併合に至るまでの日本の選択について、さまざまな場面を通して考えさせたい。「日本は朝鮮に勢力を広げるべきであったのか」「日露戦争を戦うべきであったのか」「韓国併合をすべきであったのか」というような問題について、当時のさまざまな考えにふれながら、自分なりの判断ができるように支援していきたいと考える。その際のポイントとして次のような手立てをしていきたい。

○本校社会科の研究テーマである「かかわり合う中で個が伸びる社会科学学習」をふまえ、お互いの考えを通して、自分の考えが深まっていけるような場面を設定していく。

○日本を中心とした歴史観ばかりでなく、韓国側からみた歴史のとらえかたについてふれる場面を設定する。

特に韓国側の歴史のとらえ方については、韓国の国定教科書に書かれている内容について紹介したり、実際に韓国で歴史教育を受けてこられた国際交流員のかたの話聞くことで、より多角的・多面的な判断ができるようにしていきたい。

その際に気をつけなければならないのは、判断の主体者はあくまでも生徒であり、一方的な情報からのみ判断することがないようにすることである。判断をして、考えを深めていくための歴史的事実に関する基礎的知識もふまえらるよう、学習計画をたてていきたい。

(2) 単元目標

○日清・日露戦争から韓国併合にいたるまでの日本の選択について、意欲的に考え、判断することができる。

○当時の東アジア情勢や国内外の意見などをふまえ、日清戦争から韓国併合にいたるまでの日本の選択について、多面的・多角的に考察し、述べることができる。

○日清・日露戦争から韓国併合にいたるまでの写真資料・風刺画・韓国の教科書・地図などを読み取り、資料を活用する力を高めることができる。

○日清・日露戦争から韓国併合にいたるまでの国内外の情勢とそのあらましについて、理解することができる。

(3) 単元学習計画（6時間）

| 時 | 学 習 活 動 | 教師の支援(○)と留意点(・) |
|---|--|--|
| 1 | ○19世紀の終わり頃から、欧米諸国が海外に進出していったのはなぜか考える。 ○帝国主義の時代の東アジアの情勢について考える。 ○「日本は朝鮮や清と決別すべき」という主張についての自分の考えをまとめ、発表し合う。【全体】 ○甲午農民戦争から日清戦争までの流れをまとめる。 ○日清戦争から三国干渉、北進事変までの状況について考える。 | ○帝国主義の急速な動きについて理解できるよう、アフリカの植民地化のようすについて段階的に示す。 ○この時期の日本の選択について考えることができるよう、「脱亜論」の一部を示す。 |

| | | |
|---|--|---|
| 1 | <p>○北進事変後の東アジア情勢について考える。 ○「日本はロシアと戦争すべきか」というテーマで討論会を行う。 【個人→グループ→全体】 ○日露戦争の経過と結果について考察する。 ○条約改正のようすについて考える。</p> | <p>○三国干渉後のロシアや韓国の動きを背景に考えられるように、経過をわかりやすく提示する。 ●個人思考・グループでの話し合い ・全体発表までの流れをあらかじめ示す。</p> |
| 1 | <p>○日本が韓国を併合するまでの動きについて確認する。 ○義兵闘争に参加した人の気持ちについて考える。 ○「日本は韓国併合すべきか」というテーマで自分の意見をまとめる。 ○韓国併合について、金さんに質問してみたいことを考える。</p> | <p>○日清戦争後からの動きについてわかりやすく提示する。 ●韓国併合を容認するような立場の人の考えも紹介する。</p> |
| 1 | <p>○韓国併合についての金さんの話を聞く。(合同) ○金さんに質問をしながら、自分の考えを深める。 ○韓国併合についての金さんの話を聞いて、感じたことを発表し合う。 ○韓国併合をどう考えるか。(レポートの提出)</p> | <p>○韓国併合について、多面的・多角的に考えることができるように、韓国側からみた歴史の見方について話を聞く機会を設ける。</p> |
| 1 | <p>○日本の近代化を支えた産業革命のようすについて考える。 ○産業革命をささえた人々のくらしについて考える。</p> | |
| 1 | <p>○明治の社会の変化について、さまざまな面から考える。 ○明治時代の日本の文化について、現在と比較しながら考える。</p> | <p>○明治時代の生活の変化を実感できるように、家庭史をわかりやすく提示する。</p> |

(4) 実践の概要

① 事前学習

2年生になってからの歴史学習は、ペリーの来航のところからスタートした。この単元に入るまでのところでも意識してきたのは、「友達の考えを通して自分の考えを深めたり、広げたりする」ことである。そのために、自分の考えを持った上で、友達の意見を聴き合い、その結果として、自分の考えの振り返りを行う学習活動を繰り返し行って来た。たとえば「ペリー来航～開国か攘夷か」の学習では、当時の攘夷論と開国論をもとに、自分の意見を考え、それをもとに聴き合い活動を行い、友達の考えをふまえた振り返りを行った。

〈資料2〉「開国か攘夷か」生徒の振り返りの例

- (意見) もし無視したら、攻撃されて清のようになったら大変だし、外交との交流によって新しい文化も入り、日本の発展にも役に立つかもしれない。
- (振り返り) 自分は開国派なんだけど、攘夷派の人はもし戦争になったらっていうのを考えていた。今の時代から見たら戦争なんてなかったんだけど、たしかにその時代の人はそう考えていたかもしれない。
- (意見) 清国が通商から不平等な条件を押しつけられ、戦争になっているという前例があるなら二の舞にならないように、開国しない方がいいと思う。
- (振り返り) 他の人の意見を聴いて、開国派の意見もよく納得できるのだが、それは清のように苦しまなかったという事実をしっているから開国してもよいと言えるだけであって、その時の状況では開国しようとする気にならないと思う。

これらの意見については、授業の場面でその都度紹介し、「友達の考えを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることの大切さ」について生徒自身にも意識できるよう心がけた。また、上の例にもあるように歴史を通して社会的な判断力を育てていく視点として、「当時の人の立場にたって」考えることが大切になってくるが、歴史の結果を知っている生徒たちのなかには、必ずしもそのようには考えられないものもある。このことについても、これらの授業、あるいは歴史的事実として生徒達の認識が十分でない事例なども通して、「当時の人の立場に立って」考える授業を行った。このような歴史を考えていく見方についても、意識できるよう助言を行った。

② 「日露戦争～日本はロシアと開戦すべきか」の学習

単元の学習については、明治日本が当時の様々な状況のなかで、国の進路を選択していった様々な場面を取り上げて学習した。そのなかの一つの授業である「日露戦争～日本はロシアと開戦すべきか」の学習について紹介する。目標と学習過程は次の通りである。

○目標

○ロシアと開戦すべきかどうかについて、さまざまな面から考え、表現するとともに、友達の考えを通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。

○日露戦争が起こった背景やその結果について理解することができる。

○学習過程

| 時 | 生徒の活動と意識 | 教師の支援(○)と留意点(・) |
|----|--|---|
| 10 | ○三国干渉後のロシアの動きについて確認する。 | ○日本の動きと対比して確認していけるよう、資料を提示する。 ・単元全体の流れから、朝鮮王妃の殺害事件についても紹介する。 |
| 10 | ○東京大学の七博士の意見書について、この意見について考えたことをどのように投書するか、自分の意見をまとめる。 | ○判断ができにくい生徒に対しては、適宜助言を行う。 |
| 10 | ○グループ内で発表し合う。相互に感じたことを発表し合う。 ○自分たちのグループの代表的な意見を全体に発表する。 ○友達の意見を聞いて、自分の考えが深まったり、広がったりしたことをまとめる。 | ・時間がなければ、全体の発表だけを行う。 |
| 20 | ○戦争のようすについて考える。 ○日比谷焼き討ち事件を通して、ポーツマス条約の結果について考える。 | ・戦争の経過については、ポイントをしばって深入りしないようにする。 |

この授業では、教科書などにも取り上げられている東京帝国大学の七博士の意見書と内村鑑三や幸徳秋水の非戦論から、自分の立場について考え、友達の考えを通してそれを深めていくことがねらいの一つとなっている。〈資料3〉のワークシートの例のように、自分の立場を考える際には、賛成度を%であらわすという方法をよく用いている。社会的な判断は二者択一的なものではなく、いろいろな立場から考えることで、より多面的なものの考え方ができるよう

なることをねらったものである。ただ、ここで紹介する開戦論はロシアの南下を背景とした東アジア情勢を踏まえたものであるのに対し、非戦論はキリスト教や社会主義の立場から主張されたものであり、必ずしもかみ合わない面もある。そのあたりの限界はあるものの、開戦論の是非を考えることで、東アジアの情勢も踏まえた、様々な角度から「日本がロシアと開戦すべきか」ということについて考えることが出来たのではないかと思う。

〔資料3〕

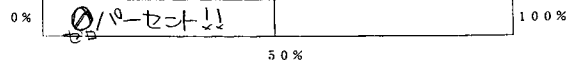
日本はロシアと開戦すべきか

3組 匿名

| | |
|---|---|
| <p>〔開戦論〕</p> <p>○ロシアはひとたび満州を占領すれば、次の朝鮮に進出するのは誰の目にも明らかである。また、朝鮮が占領されれば、次のロシアの眼がどこに向くかもうまでもないことだ。だから、今日満州問題を解決しなければ朝鮮もまた危うく、朝鮮が危うければ、日本の防衛も不可能となってしまう。今こそ重大な最後の決意をしなければならぬ。 (1903年に東京帝国大学の教授らを中心に出された意見書)</p> | <p>〔非開戦論〕</p> <p>○戦争は人を殺すことである。しこうして人を殺すことは大罪である。しこうして大罪を犯して個人も国家も永久に利益を認め得ようはずがない。(キリスト教の立場から戦争に反対した内村鑑三の主張)</p> <p>○多数の人民の不幸になり、不利益になる事は絶対に反対せねばならぬ。・・・百姓の子や労働者の子が若者の兵隊と出て、大死にするその命が惜しい。(社会主義の立場から戦争に反対した幸徳秋水の主張)</p> |
|---|---|

○日本はロシアの開戦すべきか？当時の状況を考えて、自分の考えを書いてみよう。

①「開戦すべきである」という意見に対する自分の賛成度を、%であらわしてみよう。



②自分の考えを書いてみよう。

畢竟か「日清戦争で多少自衛が出来たとしても、これからはロシアの南下が怖い。勝つとしてもあまり大きな利益はない。それに、徴兵令を働かされた兵隊に出してしまえば、手遅れで済む。必ずしも開戦が正しいとは思えない。

③グループになって話し合ってみよう。

④友達のことを聞いて、自分の考えを振り返ってみよう。

その後、せめてもロシアに勝つことが出来れば、ロシアが戦場でも日本が戦場でも、大勝し、利益を得たい。でも、戦争は誰にもよくない。戦争は誰にもよくない。戦争は誰にもよくない。戦争は誰にもよくない。戦争は誰にもよくない。

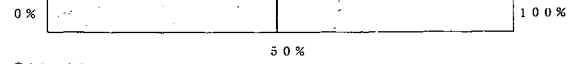
日本はロシアと開戦すべきか

4組 匿名

| | |
|---|---|
| <p>〔開戦論〕</p> <p>○ロシアはひとたび満州を占領すれば、次の朝鮮に進出するのは誰の目にも明らかである。また、朝鮮が占領されれば、次のロシアの眼がどこに向くかもうまでもないことだ。だから、今日満州問題を解決しなければ朝鮮もまた危うく、朝鮮が危うければ、日本の防衛も不可能となってしまう。今こそ重大な最後の決意をしなければならぬ。 (1903年に東京帝国大学の教授らを中心に出された意見書)</p> | <p>〔非開戦論〕</p> <p>○戦争は人を殺すことである。しこうして人を殺すことは大罪である。しこうして大罪を犯して個人も国家も永久に利益を認め得ようはずがない。(キリスト教の立場から戦争に反対した内村鑑三の主張)</p> <p>○多数の人民の不幸になり、不利益になる事は絶対に反対せねばならぬ。・・・百姓の子や労働者の子が若者の兵隊と出て、大死にするその命が惜しい。(社会主義の立場から戦争に反対した幸徳秋水の主張)</p> |
|---|---|

○日本はロシアの開戦すべきか？当時の状況を考えて、自分の考えを書いてみよう。

①「開戦すべきである」という意見に対する自分の賛成度を、%であらわしてみよう。



②自分の考えを書いてみよう。

ロシアの南下政策が進んで、今日ロシアの勢力が強まれば、必ず日本にも支配の手が伸びてきて、手遅れになる。もし、戦争で勝つとしても、不平等な条約を結ばされたとしても、その状況は、早いかな遅いかなだけの違いだと思う。

③グループになって話し合ってみよう。

④友達のことを聞いて、自分の考えを振り返ってみよう。

戦争には損失も必ずつきものだから、人々のためを思えば「非戦論」となるべきなのかもしれない。ロシアの支配下になっても、日本にとっても良い条件など。上手く交渉したい方がいいのではないかと感じました。そうすれば、国際の仲介も変化するのではないかとも思います。

このような生徒のワークシートについては次のような傾向がみられた。

- 全体的には開戦論が多く、ロシアの南下に対して、この時点で開戦しなければ日本が危ういという考えが多い。戦争するのもやむを得ないと考えている生徒が多い。
- 開戦論の生徒のなかには、負けたときのことを十分に考えていない生徒が多い。
- 開戦論の立場の生徒には、朝鮮や中国の立場を考えている生徒は少ない。戦場が朝鮮半島や満州で行われるほうが良いと考える生徒も多かった。
- 非戦論の立場の生徒の理由としては、戦争そのものを否定する意見が多い。

これから日本の近現代史を学習することになるが、戦争そのものにとらえ方についても生徒によってかなりの意識の差があると感じられた。そのことが今回の判断に大きな影響を与えているのではないかとと思われる。

③ 「韓国併合を考える」学習

日清・日露戦争にいたるまでの日本の選択について、当時の東アジア情勢や友達のことをふまえながら考えてきたが、この単元の最終段階において、実際に韓国の国際交流員である金大圭（キム・デギュ）さんの話を聞く機会を設けた。これまではこの時代の歴史が日本にとってどうなのかを中心に考えてきたこともあって、韓国の側の立場から歴史をみる視点がうすい面があった。これまでの学習でも韓国の教科書の内容を紹介する場面をつくってきたが、話を聴く前の時間には、安重根に関する記述や、日本の植民地支配、独島と間道を含めて紹介し、それらを通して質問事項を考え、問題意識を深めた。また最終的に韓国併合にいたった日本の選

択について考えるに当たって、実際韓国の方がどう思っておられるか、直接話を聞くことは生徒の考えを深める上で非常に効果的ではなかったかと考えている。

当日は、1時間しか時間がとれなかったこともあり、まずは金さんのほうから、韓国の近現代史について、パワーポイントを使いながらお話をしていただいた。生徒にとっては難しい部分もあったが、メモをとりながら熱心に聴くことができた。時間が少なかったこともあり、質疑の時間を十分にとれなかったが、生徒達からは多くの質問が出た。生徒が事前の質問事項を考えた際、一番多かったのは、韓国が日本を併合したことを、韓国の人はどう思っているのかということである。事前の学習で、日本のなかでの韓国併合を肯定するような立場の考えを紹介したこともあり、実際の話をお聴きしたいと考えた生徒が多くいた。併合されて韓国の国民が非常に辛い思いをしたということを知った生徒もそれまでの自分の考えがずいぶんと揺り動かされたようである。また「日本はいいことを何もしなかったのか」という質問に対して、「一つだけ良いことをした。それは身分制度をなくしたことだ。」という話をしていただいたが、後の感想には「これを聞いてほっとした」という感想を書いていた生徒もいた。また現代の日韓関係について興味を持っている生徒は「小泉首相の靖国神社参拝」についての質問をする生徒もいたが、こういった質問にもていねいに答えていただいた。また「なぜ日本に来ようと思ったのか」という質問に関連して、「大学で日本語を勉強するといったとき、おじさんに非常に怒られた」という話についても、生徒は強い印象が残ったようである。この話をしていただいたあと、生徒には「日本が韓国を併合したことについてどう考える」ということについて、自分の考えをまとめた。(資料4)

〈資料4〉

キムさんの話を聞いて私が知っていた韓国とはちがったイメージが
 ありました。小学校からの歴史では日本に併合されて植民地とされたの
 が韓国だということに習いました。このことは本当だけど、その後
 になにが韓国を起していたのか、ということには知りませんでした。日本
 から見た韓国と、韓国から見た自分の国民の考えはちがうこと
 がわかりました。教科書に書かれている韓国併合というできごとを讀
 んど、とても簡潔に書かれているような気がしました。韓国の人は
 忘れられないようなできごとなのに、日本人はそんなに韓国に対して
 悪いと思っていないのではないかと思います。私もキムさんの話を聞く
 前は韓国併合について、そんなにくわしく知らなかったし、安達
 という人が伊藤博文を殺したから莫明になつたこともこの前初めて
 知りました。今までは「昔のことだから私に関係ない」というような
 気持ちがあったけど、そう思っていたのは、日本が韓国に対してひどいこ
 とをしたからでした。もしも、昔他の国が日本に、韓国併合のようなこ
 とをしたと歴史で習ったら、私もその国に対して敵意という悪い
 印象を持つと思います。そう考えると、今でも日本人をおこなっている韓国
 の人がいるのは当然だと思うし、私には関係ないと思っていた自分はまち
 がていて反省しました。過去に起こつたできごとはかんはてもなくすこ
 とはできないけど、今の日本と韓国は、昔のような関係じゃなく、仲の良
 いつきあひをしてほしいです。そのためは韓国併合というできごとを日本
 人は忘れられないようにしなければいけないと思います。

お話を聞く前
 私は、金大連さんのお話を聞くまでは、日本は韓国を併合
 しても、韓国の人達にとって良い事があると思う。日本が韓
 国を併合した事は良い事ではないけど、日本には、この事が
 必要だと思ふ。

↓...と思っていたが...!!!

お話を聞いた後
 私は、金大連さんのお話を聞くと共に、今、何でこんなに仲が
 悪くなつてしまつたのか、少し分つた気がします。韓国の方にとつて、
 日本から、江華島条約を結びに来た時の日本人は、私達にとって
 べりべりな存在と聞くと、やっぱり歴史というの、色々な面
 から見る事が大切だと思ひました。そして、むりやりにした日本
 はやっぱり悪いと思ひました。
 日本は併合するのとともに、韓国の文化なども消しました。
 やっぱり、自分の住んでいる所の文化を大切にしたいし、それを
 とめるのも、韓国の人にとって、はとてまぎずつたと思ひます。
 日本は、やっぱりひどい事をしてしまつたのかな？と思ひます。
 現代の私達
 私達は、今でもその事をひきずっている気がする。やっぱり、やすくは
 神社への参拝とか、そういうのもだと思ふ。だから、日本は、足を不
 んだ方で、韓国の方は不まねた方。まよ、いつまで、その気持ち
 は変えれないと思ふけど、それを私達は分かつた上で、歴史を学
 び、これからも韓国と仲良くしていく事が大切だと思ふ。
 韓国の方への思いと、この事は、忘れてはならない事だと思ふ。

生徒は金さんの話を通して、韓国側からの視点からみた韓国併合の話を知り、それまで学
 習してきたことを深めたり、広げたりすることができたのではないかと考えている。特に金さ
 んの話のなかで、日本側の略奪行為（土地や資源）や日本文化の強要などについての話が多く
 あつたこともあり、「日本は韓国に対してひどいことをしたんだ」という感想を持つ生徒が全

体としては8割を占めた。ただ、中にはそれでも韓国併合が当時の情勢を考えるとやむを得なかったとか、いい面もあったと考える生徒もいた。また自分で自主的に調べて、併合条約の有効性などの問題について考えている生徒もおり、この問題についてこれからも学び続けていこうという姿勢を感じることができた。実際にその後の総合的な学習の時間に、2年生の19名の生徒が、県庁の環境生活部文化国際課のほうにでかけ、再び聞き取り調査を行った。その時間には来ていただいた韓国の金さんの他に、韓国の方1名、中国の方2名に参加していただき、歴史的な問題や、現在の日韓関係、日中関係のことについてもこちらの質問に答えていただいた。どの方も、韓国、中国、日本のつながりがとても深く、友好を深めていかなければならぬなかで、それを阻んでいる問題として歴史認識の問題の大きさについて話をされた。韓国の交流員の金珉善（キム ミンソン）さんは、まず問題意識を持つことの大切さについて話をされたが、まさに今回の学習を通して中学2年生なりの問題意識を育てることの大切さについて考えさせられた。

生徒個々が韓国併合について考えた段階で、歴史的分野の「韓国併合を考える」の学習は一区切りをつけている。当初は、この段階で討論会などをおこなうことも考えたが、教育実習の関係や、この後の歴史的分野の学習を経て判断するべきことも多くあると考え、日本の産業革命や社会問題の発生、明治の文化について学習したところで、歴史的分野の学習を終えた。この歴史的分野で行った学習を、次の地理的分野の学習、さらにその後の歴史的分野の学習につなげていきたいと考える。そして、最終的に日本と韓国のよりよい関係のあり方について考えていきたい。

4. 単元 日本との関わりから学ぶ近隣国の調査～韓国を例にして

(1) 学習の基盤

地理的分野の「世界の国の調査」の学習が始まった当初より、本校では事例地域として韓国を取り上げて学習している。地理的分野の第2部「地域の規模に応じた調査」の学習は、地域的規模の特色をとらえるための視点や方法を身につけさせることが、学習の本来の目的となっている。ただ、「世界の国の調査」における国の選択については、「近隣の国を含めて選び」（学習指導要領・内容の取り扱い）とされており、これは、教育課程審議会の答申に「これまでと全く欧米先進諸国に目を向けがちだったことを改め、アジア諸国等に一層目を向けるよう留意することが大切である」と述べられていることを踏まえている。このことから、近隣国の調査については、ただ学び方を学ぶための事例地域として調査を行い、学び方を学んでいくだけでなく、事例地域に対する地域認識を深めていくことも重要なのではないかと考えられる。

今回の「韓国の調査」の学習は、今まで行ってきた歴史的分野の学習と、このあと行う「日本と韓国のよりよい関係を築くために」の課題学習をつなげる学習として、国規模の地域の学び方を学ぶと共に、調査を通して「韓国とはどのような特色を持った国であるのか」という地域認識がしっかりとできるように支援していきたい。具体的な学び方については、自然・人口・資源と産業・地域間の結びつきについて地域的な特色を明らかにしていくような静態的地誌の学び方を基本とし、そのなかでも生活・文化からみた韓国の地域的特色について調査学習を行っていきたいと考える。生活・文化からの視点を中心にするについては、生徒の意欲や関心を高め、日本の地域的特色と比較しながら考える上でも効果的であると考えられる。調査学習については、生徒同士がかかわり合いながら学ぶことができるよう、グループ学習を基本として、調査・発表まで、お互いのよさを認め合いながら追究していけるように支援していきたい。

(2) 単元目標

- 韓国を事例として、静態的地誌の学び方から、国規模の地域の特色を学ぶ視点や方法を身につけることができる。

- 韓国の生活・文化について、自分の興味や関心を生かし、グループの友達と協力しながら意欲的に追究することができる。
- 韓国の生活・文化について、資料を収集・選択し、さまざまな方法を用いて表現することができる。
- 韓国の地域的特色について、自然、人口、産業、貿易などの基本的な特色や生活・文化面での日本との共通点や相違点を理解することができる。

(3) 単元学習計画 (全8時間)

| 時 | 学 習 活 動 | 教師の支援(○)と留意点(・) |
|-------------|---|--|
| 1 | <p>○韓国のイメージについて考え、発表する。</p> <p>・キムチ、冬のソナタ、チマ・チョゴリ、竹島問題、焼き肉、植民地、韓流ブーム、ハングル文字</p> <p>○韓国の特色を調べるための5つの視点にかかわって、地図帳や統計資料を使って韓国の基本的な特色を学習する。</p> <p>・面積、位置、自然、人口、産業、貿易などを調べる。</p> <p>○静態的地誌の学び方について確認する。</p> | <p>○生徒の関心を喚起するよう、事前調査の結果をOHPで提示する。</p> <p>○国の調査に必要な統計資料や地図帳の使い方についての技能を高めることができるよう、クイズを提示する。</p> |
| 2 | <p>○韓国の生活・文化についてのクイズを行う。</p> <p>○グループごとに生活・文化に関する調査内容を決める。</p> <p>〈テーマ例〉食生活、住居、衣服、遊び、学校生活、宗教、流行、若者の生活(徴兵制度)など</p> <p>○グループごとに調査・発表計画をたてる。</p> | <p>○韓国の生活・文化に対する関心を高めることができるよう、簡単なクイズを行う。</p> |
| 3 4 5 | <p>○自分たちの調査テーマに基づいて、韓国の生活・文化の特色について調べる。</p> <p>・文献を中心とした調査を行う。</p> <p>・1時間はインターネットを活用する。</p> <p>・グループ学習のよさや、友達の姿から学んだこと(態度、技能、知識面など)について1時間ごとに自己評価を行う。</p> <p>・発表用の資料を作成し、発表の分担を行う。</p> <p>・発表に向けた練習・準備を行う。</p> | <p>○生徒が資料に基づいて調査することができるよう、あらかじめ市立図書館や県立図書館において韓国に関する書籍を数十冊借り、使えるような状態を作っておく。</p> <p>○かかわり合うことのよさを意識していけるよう、グループ活動の自己評価場面を設定する。</p> |
| 6 7 | <p>○韓国について調査したことをグループごとに発表する。</p> <p>・グループ全員で協力して発表を行う。</p> <p>・日本の自分たちの生活と比較してわかったことや、感じたことについても発表する</p> <p>・それぞれの発表について、わかりやすさ、態度、資料の使い方、グループの協力の面から相互評価を行う。</p> <p>・調査・発表を通していいかかわりができた場面について紹介しあう</p> | <p>○お互いの発表のよさを見つけることができるよう、相互評価場面を設定する。</p> <p>○よりよいかかわり合いを次の学習につなげていけるよう、いいかかわりができたことを紹介し合う。</p> <p>・今まで学習したことをもとに、自分の韓国像をまとめる。</p> |
| 8 | <p>○自分の韓国像をまとめよう。</p> <p>・自分たちのグループの調査や、発表会を通してわかったことをもとに、「自分の韓国像」をまとめる。</p> | |

(4) 実践の概要

① 事前学習～国のイメージは、国の地域的特色をつかむための手がかり

2年生に入って初めての地理的分野の学習ということもあり、この単元に入る前に今年度の地理的分野の学習についてのオリエンテーションを行った。その際に、国の特色をつかむための手がかりとして、いくつかの国のイメージを考えさせた。韓国のイメージについては、右の資料5にあるようなイメージがあげられた。さすがに昨年来の韓国ブームで、キムチやハングル、チマ・チョゴリなどの伝統的な生活・文化に関わるもの以外に、ペ・ヨンジュンや冬のソナタなどの昨年来の韓流ブームに関わるイメージが非常に多かった。また竹島問題についてイメージする生徒も多かった。これについては、何年か前に同じような調査をしたときに、竹島について連想する生徒は非常に少なく、やはり島根県議会の条例制定やそれに伴う韓国の反応などの問題は、生徒の韓国に対するイメージにも非常に大きい影響を与えていると感じた。

〈資料5〉

| 韓国でイメージするもの | 人数 |
|---------------|------|
| キ ム チ | 135人 |
| ペ ・ ヨ ン ジ ュ ン | 73人 |
| ハ ン グ ル | 66人 |
| 竹 島 | 50人 |
| チ マ ・ チ ョ ゴ リ | 42人 |
| 近 い ・ と な り | 40人 |
| 焼 き 肉 | 32人 |
| 冬 の ソ ナ タ | 31人 |
| 韓 流 ブ ー ム | 20人 |
| パ ク ・ ヨ ン ハ | 17人 |

(中学校2年生 160人中 H17.6調査)

② 韓国の調査～グループの調査

第一時に、地図帳や統計資料を使って、韓国についての自然・人口・産業・貿易などを調べ、世界全体からみた韓国の人口の特色や産業の特色について考えた。そして今回の調査学習については、韓国の生活・文化を中心にグループごとに調べることにした。調査資料については、本校の図書室には十分な資料がないため、インターネットでの調査・各家庭からの資料の他、市立図書館や県立図書館で韓国に関する書籍を借りて準備した。グループで調査・発表を行うことについては、以前から年間に何回か行っているが、現在の2年生については1年次の経験が少なく、グループでかかわり合いながら調査学習を進めていくことのよさについて、改めて再認識できるよう、活動中の評価活動を工夫した。

本校ではいわゆる生活班がないため、現在座っている座席で機械的にグループをつくり、調査計画から発表を行っている。普段の学校生活とは違った人間関係のもと学習を進めるために、仕事を分担してお互いのかかわりが持ちにくくなるグループもあったが、発表までの見通しを持たせ、グループでかかわり合いながら調査学習を進めることができるよう、その都度声かけをおこなった。それぞれのグループの調査テーマは、クラスの中で偏りがないように配慮しながら、基本的には自分たちの調べたいテーマを調べることにした。実際に生徒たちが調査した内容は次のようなものがあげられる。

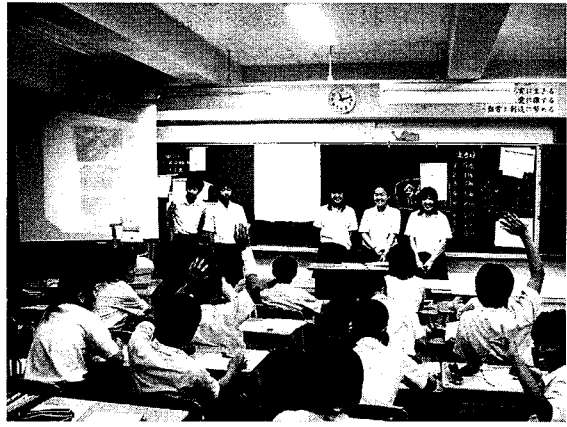
- 食生活の特色～伝統的な料理、キムチの種類、食べ方、食事のマナーなど
- 衣服～韓国の伝統的な衣服、現在流行している衣服
- 住居～韓国の伝統的な住居、オンドルなど
- 若者の生活～若者の間で流行しているもの、日本の若者との違い、徴兵制度についてなど
- 学校生活～韓国の中学生の生活、授業のようすなど
- 宗教～韓国で多い宗教、宗教と生活の結びつき、儒教の影響など
- 遊び・娯楽～韓国の伝統的な遊び、現在流行している遊び・娯楽、人気のあるスポーツなど

③ 発表会と調査のまとめ

最終的に、自分たちの調べたことについて発表会を行った。発表に際しては、お互いが相互評価をするとともに、発表用の資料については、OHP、プリント、模造紙など、自分たちで工夫をしながら発表を行った。発表が終わったグループについては、自分たちの取り組みにつ

いて自己評価をするとともに、グループのかかわりの面からの評価も行った。

すべての発表が終わった段階で、地理的分野のまとめを行った。発表した生徒の最後の感想には、「日本と似ていると思った」ということと「日本とは違うと思った」という言葉が頻りにでてきたが、最終的なまとめも日本との共通点と相違点に注目しながら行った。特に食生活におけるさまざまな違いや、儒教が生活に大きな影響を与えていること、徴兵制度があることや、若者や学校の生活の共通点や違いなどについて意欲的に調査を進めることができた。



国際交流を進めていく上での基本は異文化を理解することと、それを尊重することである。今回の学習で、生活・文化を調査の中心にすえたのは、これからのよりよい日韓関係を築いていくために、韓国の生活・文化を理解し、尊重していく姿勢を育てていく第一歩にしたいという思いがあったからである。そういった面で、地理的分野の学習において、韓国の生活・文化についての理解を深めることができたのではないと思われる。

5. 単元 日本と韓国のよりよい関係を築くために

(1) 学習の基盤

この学習は島根県が「竹島の日」条例を制定してから初めての迎えた竹島の日の前後から3月末にかけて行ったものである。この学習を始める前に、島根県教委から『「竹島の日」に関する指導について』と題する通知が計55校の県立学校長と21市町村の教育長あてに通知された。竹島の日を機に各校で授業や全校集会、ホームルームで取り上げるように働きかけたものである。新聞などの報道をみると、この通知に対する対応は学校によってさまざまであった。高校によってはその趣旨について話をしたり、学級ごとに説明する学校がある一方で、特別な取り組みをしない学校も多くあるようである。その理由として「県民の間でも意見が分かれ指導になじまない」「知識がなく生半可に生徒に教えられない」「在日韓国・朝鮮人の先生もいる。デリケートな問題」というコメントがあげられていた。私が実際に竹島問題を取り上げて、授業を構想する際に問題点として考えたのは、大きく次の二点である。

第一に竹島の問題について、問題そのものを生徒たちがどのように理解し、とらえていくのかという問題である。このことは生徒たちが竹島を理解していくための資料をどうするのかという問題でもある。この問題に対してはまず、島根県が各家庭に配布した「フォトしまねNo. 161 特集竹島」を活用することとした。この内容は島根県が竹島問題についてわかりやすく整理したものであり、なぜ島根県が竹島の日を制定したのかという島根県の方針も理解しやすい内容となっている。さらに島根県が作成したビデオ「かえれ、島と海」を視聴することによって、問題の所在について簡潔にとらえることができるのではないかと考えた。韓国側の主張については、「フォトしまね」から読みとったり、慶尚北道からの断交宣言に込められた思いを読みとることとした。これらの資料をもとに竹島問題が、どのような問題であるかを、歴史的な背景など詳細な部分は難しいとしても、問題のおおまかなところはとらえることができるのではないかと考えた。

第二の問題点として、竹島の問題を通して、何を考えていくのかということである。竹島が日韓どちらのものであるかを、さまざまな資料を用いて科学的に明らかにすることも大切であるが、より重要なのは、竹島の問題やその他の日韓関係の様々な問題は、それを乗り越えてよりよい関係を築いていかなければならないという文脈のなかで学習していかなければならないということ

である。それがこの課題学習の大きなポイントであるし、島根県が「竹島の日」条例の制定に込めた願いをふまえるものであると思う。今回の学習において、竹島問題や靖国神社参拝問題などを取り上げながら日韓の間の問題点について学習していくが、最終的な目標を「よりよい関係を築くために」とするのは、現在のさまざまな状況をふまえると、大切なことではないだろうか。このことを考えていくために、島根県国際交流員の方に学校に来ていただき、話を聞くことにした。実際に韓国の方に竹島についての話を聞いたり、これからの日韓関係についての思いを語っていただくことは、生徒たちがこれからの日韓関係のよりよいあり方について考えていくのに、重要な時間になると考えた。さらに、竹島の日のあとしばらくして放送されたNHK番組「ふるさと発 僕たちの竹島の日」は、日韓双方の若者が竹島問題について学び、それをこれからの関係を築こうとする意図をふまえたものであり、授業においても活用することができる内容であった。この番組では、竹島問題に対する韓国側の思いも盛り込まれており、バランスよくこの問題をとらえていく上でも効果的ではないかと思われる。

以上のような二つの問題点をクリアし、最終的に生徒の竹島問題やその他の日韓関係に対する理解が深まり、問題を乗り越えてこれからのよりよい日韓関係を築こうとする意欲が高まることを期待し、実践を行った。

(2) 単元目標

- 竹島問題をはじめとする日韓関係のさまざまな問題について、その問題の背景や、現在の状況についておおまかに理解できる。
- 今まで学習した地理的分野や歴史的分野の学習の成果を生かして、現在の日韓関係の問題をとらえ直すことができる。
- これからのよりよい日韓関係のあり方について、日本と韓国、島根県と慶尚北道、自分自身がどうしていけばいいのか、多面的・多角的に考えることができる。

(3) 単元学習計画 (計7時間)

| 時 | 生徒の活動と意識 | 教師の支援(○)と留意点(・) |
|---|---|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ○日本と韓国の関係についてさまざまな面から考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本と韓国の貿易による結びつき ・日本と韓国の人の動き ・日本に住む外国人 ○日本に在日韓国・朝鮮人が多く住んでいるのはなぜか考える。 ○在日韓国・朝鮮人問題について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の関心を喚起するよう、あらかじめ調査した「外国に対する親しみ度」を、過去の調査を比較しながら示す。 ・在日韓国・朝鮮人の問題については、歴史的な背景をもとに考えさせる。 ○在日韓国・朝鮮人の問題について、理解を深めることができるよう、「『多文化共生社会』のために」や、身近な在日の人の思いについて提示する。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ○なぜ竹島をめぐる問題が起こったの考える。 ○島根県が「竹島の日」を制定した島根県の方針について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・「竹島の日」を制定したことについて賛成(共感できる)か反対(共感できない)か考える。 ○竹島問題を越えて、日本と韓国がよい関係を築いていくためにはどうしたらいいか話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○竹島問題をわかりやすく理解するために、島根県製作の「かえれ、島と海」のビデオを視聴する。 ○竹島問題の論点を理解するために、島根県製作の「フォトしまね～特集竹島」を配布すると共に、要点をまとめたプリントを配布する。 ・島根県知事の思いや、慶尚北道の断交宣言を通して考えさせる。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ○小泉首相の靖国神社参拝問題について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・靖国神社がどのような問題か、資料をもとに考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ○靖国神社の問題をわかりやすく理解できるように、資料を配付する。 |

| | |
|--|--|
| <p>・靖国神社の参拝についての、さまざまな意見について考える。</p> <p>○靖国神社の参拝問題について、自分の賛成度をもとに、その是非について話し合う。</p> <p>4 ○県の国際交流員の方との交流をする。</p> <p>5 ・韓国生活・文化について</p> <p>・日本の韓国の間にある問題について</p> <p>○これから日本と韓国がよりよい関係を築いていくための交流員の方の思いを聞く。</p> <p>○交流会を通して感じたことをまとめる。</p> <p>6 ○ビデオ「ふるさと発 僕たちの竹島問題」を視聴する。</p> <p>○これから日本と韓国がよい関係を築いていくためにはどうしたらいいか、自分の考えをまとめ、グループで話し合う。</p> <p>7 ○グループで考えたことを、発表しあう。</p> <p>○発表を通して思ったことを話し合う。</p> <p>○よりよい日韓関係を築いていくために、自分自身がどうしていったらいいか、考える。</p> | <p>○さまざまな考えがあることを理解できるよう、賛成派や反対派の新聞の社説を示す。</p> <p>○生徒が韓国に対する理解を深めることができるよう、韓国の生活・文化について実物を使いながら話をしてもらう。</p> <p>○生徒の問題意識を大切にしながら、質疑によって、さまざまな問題について考える。</p> <p>○友達の考えを通して、自分の考えが広がり深まったりするよう、グループで話し合う時間を設ける。</p> |
|--|--|

(4) 実践の概要

① 外国に対する親近感の変化と在日韓国・朝鮮人問題について (第一次より)

この単元を始める前に、外国に対する親近感について生徒に対するアンケート調査を実施した。外国に対する親近感の調査は時々行っているが、1998年に調査したものと比較すると次のような結果になった。

〈外国に対する親近感〉1998年

| 国名 | A | B | C | D | E |
|---------|----|----|----|----|----|
| アメリカ合衆国 | 99 | 33 | 6 | 5 | 4 |
| オーストラリア | 52 | 43 | 25 | 14 | 13 |
| イギリス | 44 | 43 | 27 | 11 | 12 |
| フランス | 43 | 42 | 35 | 11 | 16 |
| 中華人民共和国 | 39 | 56 | 25 | 16 | 11 |
| 大韓民国 | 35 | 45 | 36 | 20 | 11 |
| ブラジル | 19 | 49 | 39 | 19 | 21 |
| 北朝鮮 | 10 | 21 | 48 | 55 | 12 |
| ロシア | 6 | 41 | 48 | 41 | 11 |

〈外国に対する親近感〉2006年

| 国名 | A | B | C | D | E |
|---------|----|----|----|-----|----|
| アメリカ合衆国 | 90 | 39 | 7 | 9 | 7 |
| オーストラリア | 47 | 54 | 18 | 10 | 16 |
| イギリス | 38 | 62 | 25 | 15 | 16 |
| フランス | 20 | 64 | 33 | 17 | 21 |
| 中華人民共和国 | 19 | 56 | 41 | 28 | 11 |
| 大韓民国 | 57 | 35 | 18 | 17 | 8 |
| ブラジル | 18 | 40 | 42 | 29 | 26 |
| 北朝鮮 | 3 | 6 | 24 | 111 | 11 |
| ロシア | 12 | 39 | 54 | 25 | 25 |

A：親しみを感じる B：どちらかという親しみを感じる
 C：どちらかという親しみを感ぜない D：親しみを感ぜない E：わからない

アメリカやオーストラリアに対する親しみは相変わらず高い傾向にあるが、大きく変化したことで目立つのは、中国や北朝鮮に対する親近感が大きく低下していることである。昨年来の反日デモの激化や靖国参拝に対する反発など、マスコミにも大きく取り上げられるような出来事が多く起こったことが原因ではないだろうか。また北朝鮮に対する意識の低下については、拉致問題や核開発問題などの影響が大きいのは言うまでもなからう。そして韓国に対する親近感については、前回と比べて親しみを感じる割合が増加しており、その理由をみても、韓流ブームの大きさを感じさせる内容が多かった。8年前には韓国のスターがこれだけ人気になるようなことはほとんどなかったし、韓国ドラマがブームになっているような状況でもなかった。竹島問題などさまざまな問題があるにせよ、日韓をめぐる状況はここ数年で大きく変化している

ように思われる。「自分たちが韓国についてどのような意識を持っているのか」ということについて共有化し、韓国に対して親しみを感じる理由や、逆に親しみを感じない理由について考え、この単元の導入とした。

また、あわせて、日本に在日韓国・朝鮮人が多く住んでいることや、その歴史的な背景について、島根県が発行した『多文化共生社会』のために～在日韓国・朝鮮人アンケート調査から～」を活用しながら学習した。日本にいる韓国の方の思いや立場を受け入れ、その文化を尊重し合っていくことが、これからの日韓関係をよりよいものにしていく基盤の一つではないだろうか。こういった「内なる国際化」という視点については、日韓関係を考えていく際のポイントの一つではないかと考えている。昨年の校内弁論大会で、本名で学校生活を送っていた在日韓国人の先輩が自分の思いを発表したことを思い出しながら、自分たちの在日韓国・朝鮮人の方に対する意識について話し合った。またテレビなどで活躍しているスポーツ選手や芸能人のなかにもたくさんの韓国系の人がいることを初めて知った生徒も多く、韓国が日本にとって特に身近な国であることをとらえることができたのではないかと思う。

② 島根県が「竹島の日」条例を制定したことについてどう判断するか（第2次）

2時間目から、日韓関係の具体的な問題点を取り上げながら、学習を進めていった。竹島問題がどういう問題であるかは、前述したように、島根県が作成したビデオ「かえれ、島と海」を視聴し、あわせて「フォトしまね」のパンフレットをクラスの数分準備して、生徒に配布した。さらに、生徒が竹島をめぐる動きをわかりやすくつかむことができるように、「フォトしまね」のなかから竹島に関連する部分について「竹島関連年表」を生徒用に作成し、生徒に配布した。生徒に配布した資料で特にポイントとした記述については次の通りである。

〈竹島問題関連年表〉～生徒に配布した年表のうち、特に説明を加えたもの

| 年 | 竹島にかかわるできごと |
|-------|---|
| 1900年 | 大韓帝国政府が「勅令第41号」を發布。鬱陵島を鬱陵郡に昇格した上で、同郡の行政区域を鬱陵島と竹島、石島とする。（韓国側はこの石島が現在の竹島だと主張） |
| 1905年 | 日本政府の閣議決定で、竹島と命名し、島根県隠岐島司の所管とする。 「島根県告示40号」により、竹島の島根県編入を公示する。（2月22日） |
| 1945年 | GHQが日本漁船の操業区域を指定。（マッカーサーライン）竹島はラインの外側に置かれる。 |
| 1946年 | 1月GHQの指令で、日本の行政権が及ぶ範囲から竹島をはずす。 6月GHQの指令で、日本の船舶、乗組員に対して、竹島の12カイリへの接近を禁止。 |
| 1947年 | サンフランシスコ講和条約の第一次草案が発表される。竹島は日本が放棄する領土にふくまれる。 |
| 1949年 | サンフランシスコ講和条約の第六次草案で、竹島が日本の保持する領土に加えられる。 |
| 1951年 | 7月韓国政府が米国政府に対し、サンフランシスコ講和条約のなかで、竹島を韓国領に追加するよう要望されるが拒否される。 9月サンフランシスコ講和条約に調印。 |
| 1952年 | 韓国政府が李承晩ラインを引き、竹島を自国領に含める。 |
| 1953年 | 李承晩韓国大統領が、李承晩ライン内からの日本漁船の退去を命ずる。違反した日本船の拿捕を強行し始める。→以後300隻以上の漁船が拿捕される。 |
| 1954年 | 韓国政府が竹島に領土標識を設置。海上警備隊を派遣し、武力占拠を決定。 竹島問題で、日本政府が韓国政府に対し、国際司法裁判所への提議を提案するが、韓国政府は拒否。 |
| 1965年 | 日韓基本条約により、両国の国交が樹立。同時に日韓漁業協定が調印され、李承晩ラインは消滅。→同島の12カイリ以内には、現在も日本の船は近づくことはできないまま。 |

このなかでも竹島の島根県への編入、サンフランシスコ平和条約にいたるまでの経過、李承晩ラインと現在の竹島の状況、国際司法裁判所への提議についての韓国の拒否などについてはきちんと説明した。ただ竹島をめぐる動きについては、論点は古代にまでにさかのぼるが、中学生の段階では詳細な問題に深入りすることはさけ、近現代の部分だけにとどめた。また、竹島問題について考えていくための発問として、「竹島がどちらのものか」という問いかけもまたむずかしいと考えた。日韓双方の主張や資料も膨大なものに広がる可能性があり、また今回の授業の趣旨は竹島問題に決着をつけようとするものでなく、日韓関係を考えていくものである。そこで今回は、「『竹島の日』条例を島根県が制定したことについてどう思うか」という発問の形で、島根県の竹島の日条例に賛成（共感できる）か、反対（共感できない）かどうかを判断しながら、竹島問題について考えることとした。この発問に対する生徒の判断を、大きく分別すると右のような結果になった。

また、賛成意見、反対意見にはそれぞれ次のような意見があったので紹介する。

島根県の「竹島の日」条例の制定について

| 意見 | 人数 |
|------------|-----|
| 賛成（共感できる） | 80人 |
| 反対（共感できない） | 29人 |
| どちらとも言えない | 43人 |

- 竹島は、歴史的にみても、国際法的にみても日本の領土であるのは明白であるし、韓国のような自分勝手な国と交流しても、また何か言いがかりをつけられ、問題が起きてうまくいかないと思います。また、竹島を譲れば日本は莫大な損失をするので、韓国に譲る必要はないと思います。（賛成度100%）
- 韓国の国民は、竹島（独島）についてみんなよく知っていて、子供の頃から独島は韓国の領土だと言われているのに対し、日本人は島根県民くらいしか竹島についてよく知らないから、もっと竹島について深く考える日がなければならぬから。国際的な法律に照らし合わせても竹島は日本の領土らしいので、日本が手を引く必要はないと思う。（賛成度90%）
- 日本の領土だといってもおかしくないと思うし、韓国は一方的すぎると思います。でもかといって、日本が強い態度をとってしまうと、今後の国交がすごい悪い状況になってしまう可能性が高いから、急ぎすぎず、あせらないで冷静に対処すべきだと思います。でも、韓国に何を言っても進展がなさそうだから、日本はあきらめて竹島を韓国領とみとめたほうがいいのかと思いました。（賛成度70%）
- やっぱり竹島は日本のものだと思うのでほとんど賛成ですが、韓国では小さい頃からずっと自国のものだと教育されているので、そう信じている人が反対するのは当たり前のことだと思う。県と県とかじゃなくて、国と国で考えていく問題だと思う。（賛成度75%）
- 知事の言う通り、「竹島は竹島」「交流は交流」で分けて進展させていけばいいと思う。この領土問題を放って置けば、後に大きな課題、問題が残り、もっとぎくしゃくとした関係になりそうなので早期解決を考えます。韓国側として立った時に、韓国でも固有の領土と教えてきているので、そういう先入観がある時点でこの日を制定するのはどうかと思う。風化をおそれるならば、もっと政府、そして韓国側と会議などを開き、お互いにすっきりとした形で終わらせるのが県のすべきことだと思う。（賛成度40%）
- 韓国側が「竹島の日」を作るなど言っていた中で一方的につくるのはおかしいし、関係が悪化するのには目に見えていたはずだ。関係が悪い中協議しても、お互いに自分の領土だと主張するだけで進展がないか、協議する場すら作れないかもしれない。だから竹島の日を設定せず、相手のことを理解する協議をしたほうがよかったと思う。もしも「竹島」がどちらかのものになっても、関係は悪いままで本当の解決にはならない。（賛成度0%）

生徒たちはそれぞれ、竹島の日の制定の是非について真剣に考えていた。賛成度100%あるいは0%のような意見もあるが、賛成か反対か決めかねる生徒も多くいた。次の意見は賛成度50%の意見である。

- 県がどのように考えているのかよくわかった。昔から日本のものだったし、確かに日本のものだと思う。でも今日の授業や「フォトしまね」には韓国側のことが書いてない。韓国はなぜ我が国の領土だと主張するのか、どういう考えでそう言っているのかがわからなかった。だから、その向こうの意見を聞かないことには賛成も反対もできない。そして、お互いの意見に耳を傾けることが、今後の異文化理解に必要だと思う。
- 韓国も日本もお互い「取られた」という意識が強くて、譲り合う気持ちより奪い合う気持ちがあるから、そうじゃなくて、どうやったらお互いに納得できるのか考えた方がいいと思いました。日本の言い分もわかるし韓国の言い分もわかるんだけど、それを大切にしながら、よい解決法をみつけたらいいと思います。

この生徒たちの意見にあるように、もっと韓国側の考えを聞かなければならないということ述べていた生徒も多くみられた。こういった意識の高まりをふまえながら、実際に韓国の国際交流員との質疑を通して、韓国の方の考えにふれ、自分の考えを深めていく学習につなげた。

③ 韓国の国際交流員の方と交流しよう

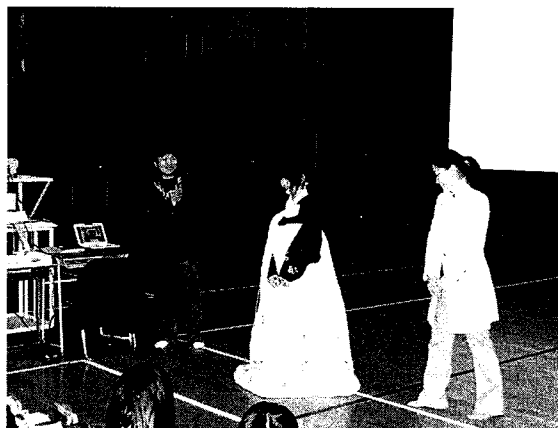
小泉総理大臣の靖国神社参拝について考える場面を間にはさみ、韓国の国際交流員の方に聞いてみたいことを考えた。それまでの地理的分野や歴史的分野の学習をふまえ、生徒たちはさまざまな質問を考えた。この質問事項をもとに、国際交流員の方と打ち合わせをおこなった。打ち合わせに用いた資料の一部を紹介する。

1. 日 時 3月16日(木) 13:35~15:25
2. 本時までの流れ(これまで生徒たちが学習してきたこと)(略)
3. 明日の会の流れと内容(13:35~15:00くらいをめぐりに)
 - ①金 大圭(キム・デギユ)さんと金 珉善(キム・ミンソン)さんの紹介。
 - ②韓国の生活・文化について(20分ぐらい)
 - ・韓国の学校生活について~制服, 給食など
 - ・チマ・チョゴリについて~実際に紹介してもらえたら
 - ・日本では韓流ブームとかが起こっているが, 韓国でブームになっている日本のものは? など
 - ③韓国と日本の問題について~いろいろな面から(40分ぐらい)
 - ・竹島の問題
 - 独島について, 韓国ではどのように教えられているか
 - 李承晩ラインの根拠は何か?
 - 実際には竹島を韓国が占拠していることについてどう思うか。
 - 国際司法裁判所で問題を取り上げることになぜ韓国は反対しているのか
 - 島根県「竹島の日」条例制定の韓国での反応はどうだったか。
 - ・小泉総理大臣の靖国神社参拝の問題
 - 靖国神社の参拝について個人的にどう思うか
 - 靖国神社に参拝を続けるべきであるという意見についてどう思うか
 - ・歴史に関する問題
 - 強制連行などについての戦後補償の問題について, 日本の補償は不十分だと思うか
 - 「親日派の財産没収」についてどう思うか
 - ④さまざまな問題を乗り越えて, よりよい日韓関係を築いていくためにはどうしたらいいか。
 - ⑤あいさつ

資料にある、日本と韓国の問題については、生徒たちが韓国の方への質問事項として考えたものをまとめたものである。当初は、このことを伝えた上で、交流員の方に話をしてもらおうとも考えていたが、生徒たちにその場で質問を受けたことに対して答えたほうがいいという御意見もいただき、生徒との質疑応答という形で会を進めることとした。

当日の授業は、まず金 大圭さんのほうから、韓国の生活や文化についてパワーポイントを用いて、お話をしていただいた。生徒たちは1学期に韓国の生活・文化について学習しているが、改めて発見することも多くあり、また韓国の食生活や中学生の生活について、ユーモアを交えながら話をしてくださり、生徒の興味や関心を高めることができたのではないかと思う。

実際にチマ・チョゴリを生徒に着せていただいたりもして、なごやかな雰囲気の中かで会を進めることができた。(写真①)その後、私の方から前述した竹島問題に対する意識について紹介し、質疑に入った。生徒たちから質問がでるか心配していたが、質問する生徒が予想以上に多く、竹島問題や靖国参拝問題、戦後補償の問題など、さまざまな質問を行い、それに対して交流員の方は丁寧に答えていただいた。竹島問題についての交流員の方の答えの基本は「竹島(独島)は韓国のものである」ということである。従って国際司法裁判所で問題を取り上げること自体がおかしいことであるという認識である。韓国が竹島を占拠していることや、近づく日本船を拿捕してきたことなどについても、「竹島(独島)が韓国のものである」という前提での答えであったように思う。その論拠については詳しく述べられる時間はなかったが、答えに対しては一つ一つ丁寧に説明してくださった。靖国神社の参拝についてはA級戦犯を分祀することによって韓国民の感情はずいぶん違ったものになるということや、韓国民の思いにもっと配慮してもらいたいということをお話された。これらの質疑の最後に、そういった問題を乗り越えて、日本と韓国がいい関係を築いていくために大切なことを、それぞれに話をしていただいた。



写真①

(写真②)金 大圭さんは同じ人と人として交流することの大切さを、金 珉善さんはさまざまな問題に対して問題意識をしっかりと持っていくことの大切さを話してくださった。交流会を終えた生徒の感想について、竹島問題



写真②

について考えた感想の一部を紹介する。

○今日の話で、やっぱり私たち日本人と、金さんたち韓国人の考えは、全くではないけれど違うところが多いんだと思いました。いろんな考え方の違いの中で解決するためには、お互いの違う考えを否定するだけじゃなくて、理解し合う努力が必要だと思います。竹島問題では、日本も韓国も、絶対に自分の領土だと言い張っているけれど、それでは話は進みません。たとえば教科書で、一方の(自分の国の)主張だけを載せるんじゃなくて両方のを載せればいいと思います。靖国問題も竹島問題も平和的に解決するためには話し合いが一番だと思います。そのためにはもっとお互いのこと、考えを理解して、認め合うことが大切だと思います。

- 日本と韓国がよりよい関係を築くためには、もう妥協するしかないと思います。金さんたちを否定するわけじゃないけど、日本に住んでいる交流員の方でさえ竹島は韓国のものだと信じて疑っていないので、韓国に住んでいる国民100%はそう思っているのかなと思いました。竹島についての考えが揺れ動いている日本が、韓国を説得できるわけがないと思います。
- 竹島は韓国ではすべての人が知っていて、固有の領土だと信じているので、裁判にかけたりすることさえ反発するデリケートな問題だと思いました。竹島がいつから領土になったのか、どのような記録が残っているかをしっかりと確認して、いろいろと話し合ってみるといいと思います。また韓国に比べて日本では国内の竹島の知名度が低いので、いくら島根県民の一部が反対しても、国全体で竹島を守っている韓国に比べて説得力がないと思います。だから日本では国内での運動をもっと広めて、国全体で考えていくといいと思います。
- 金さんたちが言われたように、教科書だけで相手の国を知ろうとするのではなく、個人でもいいので交流していけばいいと思う。そうすることで本当の意味でお互いを知ることができると思う。いま話題になっている「竹島問題」や「靖国神社参拝問題」については、韓国は韓国なりだが、その問題について力を入れて勉強している。一方日本ではおおまかなメジャーな事しか知られていない。やはりこれらの問題を解決するに当たって、竹島のことを勉強し、そのことについての意見を一人一人がしっかりと持つことが大事だと思う。政治的な面以外では、両国民とも交流を望んでいる。昔と違い、朝鮮の人々を下にみるような見方は薄れてきた。今はスポーツだけでなく、産業、学習などいろいろな面で良きライバルとなっている韓国とは、これから先いろいろな事に友好的な付き合いで東アジアの一員という広い視野を持ち、両国共栄をかかげてほしい。

感想をみると、生徒の多くは韓国と日本の考え方の違いを受け止めながら、それをどうやって乗り越えていったらいいかという自分なりの考えを持つことができたのではないかなと思われる。また交流会が終わってからも、なかなか教室に帰らずに、交流員の方いろいろな質問をしている生徒の姿もみられた。(写真③) この交流会を通して、問題の難しさは理解しつつも、お互いの国のことを知ると知り合うこと、交流を進めていくことについて大切であるという意識もまた高めることができたのではないだろうか。

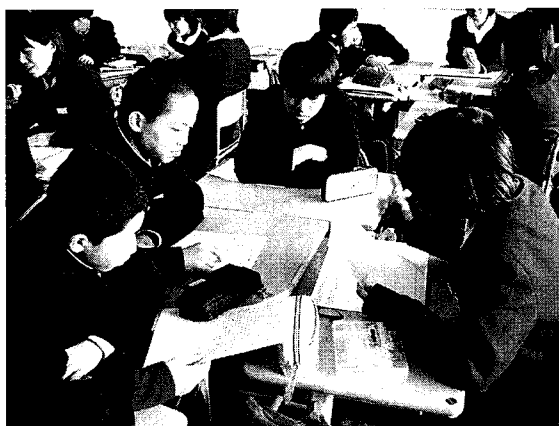


写真③

④ これから日本と韓国がよりよい関係を築いていくために

この交流会を通して高まった意識をもとに、最終的にこれから日本と韓国がよい関係を築いていくためにどうしたらいいか、考えていくことにした。これまでのところで、生徒一人一人がいろいろと異なった考えを持っている。それをグループやクラス全体で共有化し、生徒同士がかかわり合いながら自分自身の考えが深まったり、広がったりするように心がけた。

まずこの授業の最初に「ふるさと発 僕たちの竹島問題」という番組を試聴した。ここ

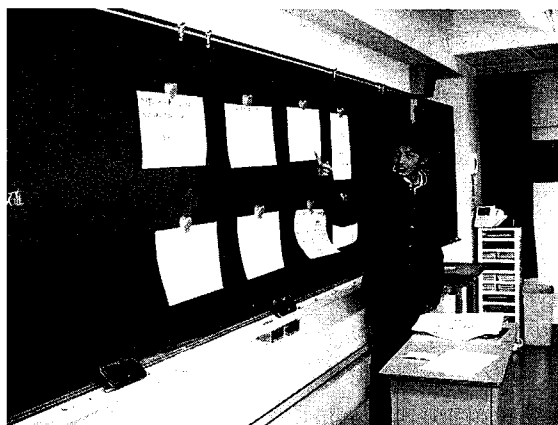


写真④

では日本と韓国の若者3人ずつが同じ宿舎に泊まって、竹島問題やお互いの国の見方の違いを専門家から学び、討論を行い、最終的にこれからどうしていけばいいか、相手側にメッセージを送るといった内容であった。この番組にもヒントを得ながら、日本と韓国がこれからよりよい関係を築いていくために大切だと思うことを、自分の考えをもとにグループで意見交換を行った。(写真④)そして、特に大切であると思うことを画用紙一枚にまとめることとした。それぞれのグループが自分たちの思いを意見交換しながら、画用紙にまとめていった。生徒たちは、グループで共通する意見をまとめたり、さまざまな意見のなかで特に重要だと思うものについて話し合った。最終的にスローガンのような形にしながら、一枚の画用紙にまとめていった。それぞれのグループで話し合っあがった意見には次のようなものがあった。

- お互いの国について分かり合うこと、もっと理解し合うこと。
- お互いの国に対して、先入観を持たないようにする。
- お互いのよくないところを認め合い、譲り合うところは譲り合うこと。
- お互いの意見を尊重する姿勢を持つこと。
- 日本と韓国の壁をつくらないで交流を積極的にやっていく。
- 日本と韓国が対等の立場で、よきライバルとして高め合っていく。
- いろいろな資料やメディアの情報を様々な視点からみる。
- 学校で韓国についてももっときちんと勉強できるようにする。
- 教科書だけで相手を知ろうとするのではなく、個人でもいいので交流をしていく。
- 韓国と日本でお互いが納得のいく教科書をつくる。
- 若い世代が、これからの日韓関係をよくしていく。
- 竹島問題について、他の国にも力を借りながら早急に解決する。

まとめかたは、さまざまであるがこのような意見が生徒から出され、グループの代表者が自分たちのグループで出した意見や、なぜこのようにまとめたのかを全体の前で発表した。(写真⑤)これから日本と韓国がよりよい関係を築いていくために、国としてどうすればいいか、島根県がどうしていけばいいかなど、さまざまな視点からの考えを発表していった。グループの代表者は、自分の言葉でしっかりと発表することができたのではないと思う。そして発表を聴きながら、各自が最終的な自分の考えをまとめていった。そのなかで、大切にしたのは、この課題に対して「自分はどうすべきか」ということである。国でやるべきことも、島根県がやるべきことも、さまざまな関係団体がやるべきこともあるであろう。そういったなかで、自分はこの課題についてどうしていくのかをそれぞれが考えていった。この課題学習を通して、最終的に自分がこれからどうしていきたいか、生徒たちが考えたことを紹介したい。



写真⑤

- まず韓国のことをたくさん知りたいと思う。日韓関係の問題に関わらなくても、生活・文化でもいい、統計的なことでもいい、とにかくいろんなことを知りたい。韓国をいろんな目で見ても、できるだけのことをわかりたい。そのなかで、歴史とかも学んでいって、「韓国のあの主張はこういう史実に基づいているんだなあ」とか、そういう韓国側の考えを理解していきたい。
- テレビや新聞で韓国のことについて取り上げられていたら、積極的にみてみたいと思います。韓

国人が日本人に対してどのような印象を持っているのか、などを知りたいです。実際にホームステイをしてみて交流を深めたり、ホームステイなどをしなくても文化会館などで韓国の方に話を聞いてみると良いと思います。インターネットや文献などでは間違っていることもあると思うからです。

- まず韓国のことを知り、韓国からみた日本の姿、歴史的な関係を知ることをしていこうと思う。ニュースや新聞、インターネットなどを通して、今の日韓関係、竹島問題、靖国問題を知ることが最優先だと思う。僕は学校の授業で取り上げるまでは、日韓のことなどほとんど知らなかったし、竹島、靖国などは聞いたことがある程度ただだから、まずお互いを知ることが大切だということを改めて知った。交流を通して、相手のことを知ったり相手の立場になって考えていきたい。自分だけがこんな動きをしても大して意味はないかもしれないけど、友達や家族など様々なひとに広めていきたい。
- 今までは日本と韓国との間にある問題を全然知らなかったけど、今回社会の授業を受けて、韓国との問題などがだいぶわかったと思います。それでも韓国人に比べたらまだまだ竹島の問題について関心が少ないと思うので、これから個人でも竹島の問題について調べていき、日本側の考えだけでなく韓国側の考えもわかるようになるといいです。あとは、積極的に韓国との交流活動に参加して、お互いのことを理解し合うことができると良いです。
- 私は今まで、日本と韓国の間にある問題についてあまり興味がなかったけれど、この学習を通して関心がないこと、知らないことはいけないことだと感じました。国内でも右翼、左翼などの考えがあるので積極的に知りたいと思いました。私はまだ知らないことがたくさんあると思います。これからいろんな事を知っていく中で、かたよった見方をしないで、相手国のことも考えて自分なりに正しく理解できるようになりたいと思います。
- できるだけ韓国での日本の歴史などについてくわしく学ぶようなことをして、物事の真実を考えていきたいと思っています。そしてできれば、実際に韓国の人々の話を聞いて、その人々の声を日本の人に伝えたりをいうことをしてみたいと思います。韓国の歴史だけじゃなくて、韓国の伝統文化なども調べてみんなに知ってもらったり、日本が間違いなく正しいと思う人たちがばかりの世の中にならないように、少なからず努力していきたいと思っています。
- 私は1度小学校6年生の時に、韓国の人(同じ年)と交流(ホームステイ)したことがあって、そのときはまだ日本と韓国のさまざまな問題なんてしらなかつたので、普通に仲良くなって韓国ってよい国だなと思いました。でも、日本と韓国の間さまざまな問題を知っていくうちに、韓国に対するマイナスイメージも持つようになりました。そして今回授業で日韓の関係について勉強して、自分にはすごく先入観があって広い目で見られていなかったなと思いました。なので、もっと韓国のことを知りたいと思いました。また韓国の友達とメールをしてみたいです。
- 自分は今回の学習で、日本人はこの問題について関心がない、知ろうとしないということがわかったので、これからはもっと関心を持ち、いろいろと調べていきたいです。その上で、日韓関係の問題はどうしたら解決できるのか、結論を出したいと思いました。もちろん現時点でもたくさんのことを学ぶことができたと思いますが、まだまだ知らないことがたくさんあると思うし、学んだといってもどうなるってことではないけど、韓国の人が日本のことをわかろうとしているのだから、日本人として韓国のことを知りたいと思います。それが直接つながることではなくても、日韓の相互理解ということではないかと感じました。
- 日本と韓国の問題を考えるときに、五分五分、もしくは少し韓国よりで考えていきたいと思う。それくらいの意志を持っていないと、日本側にかたよった考えになってしまうと思うから。自分一人では、大きなことはできないけど、自分を中心に輪を広げていって、韓日の結び目を強くできるようにしたい。

ほとんどの生徒が、これまでの学習をふまえ、自分なりの思いをまとめることができた。この問題について、マイナス的な思考でとらえている生徒の意見はほとんどみられなかった。これらの意見がある程度共有化し、この単元を終了した。

(4) 考 察

この特設単元「日本と韓国のよりよい関係を築くために」の学習は、これまで中学校の授業であまり取り上げてこなかった竹島問題や、靖国神社の参拝問題を取り上げ、日本と韓国がよりよい関係を築いていくためにどうしていけばいいかを考えていったものである。竹島問題については、前述したように中学生段階ではその歴史的な背景から詳細に学習するとむずかしい面があるが、最後の生徒の感想のなかに、「竹島問題についてもっと知りたい」「日本と韓国の間にある問題をもっと知りたい」「韓国のことについてもっと知りたい」「韓国のことをもっと理解していかなければならない」というような記述が多くみられたことは、この学習の成果であると思う。こちらが準備した資料や、国際交流員の方の話を通して、問題そのものに対する関心を高めることができたのではないだろうか。そして、最終的にお互いの国がもっと理解し合うことによって、よりよい関係を築いていこうという、意欲的な記述も多くみられた。右の表は、すべての学習が終わったあとに、「学習を終えて、日韓関係のさまざまな問題についての関心や、解決のための意欲が高まったと思いますか。」という質問に対する生徒の意識である。この結果をみても、日本と韓国がよりよい関係を築くための生徒の関心や意欲の高まりについて、プラス面の評価ができるのではないだろうか。この学習を構想する段階で意図した「竹島の問題やその他の日韓関係の様々な問題は、それを乗り越えてよりよい関係を築いていかなければならないという文脈のなかで学習していく」ということについて、ある程度の成果があげられたのではないだろうか。この学習を通して学んだことが今後の日韓関係改善に向けての態度に結びついていくかということについても、大いに期待したいところである。

〈課題学習終了後の意識〉

| 関心や意欲が高まったと思うか | 人数 |
|----------------|-----|
| 思う | 93人 |
| 少し思う | 51人 |
| あまり思わない | 1人 |
| 全く思わない | 0人 |
| わからない | 6人 |

6. おわりに

わたしが「日本と韓国のよりよい関係を築いていくために」というテーマで実践研究を行ったのは、1999年以来2度目である。日本と韓国との間にあるさまざまな問題を乗り越えて、これから日韓関係がお互いの国にとってよりよいものになっていくようにとの願いを基盤として行った実践である。この実践を行っている最中、あるいはこの原稿を最終的に校正している段階においても、さまざまな問題が進行している。特に最近起こった次の二つのできごとについては、懸念すること、考えさせられることが多々ある。

一つめは、昨年12月に朝鮮半島の植民地化や植民地統治に協力したとされる人の子孫の土地や財産を国が事実上没収とする新法が、韓国国会で成立したことである。本校では、生徒たちに、自分が関心のある新聞記事を切り取ってノートに貼り、コメントを書いて定期的に提出させているが、このことが新聞で報じられたあと、一人の生徒がその新聞記事についてのコメントを書いてきた。「韓国は過去にこだわりすぎる。これは厳しすぎるのではないか」と。何十年も前のことをさかのぼって、法律まで作って財産を没収することはないのではないか。わたしもこの記事をみて率直にそう感じた。今回の授業のなかでもその記事については生徒たちに紹介し、そのこともあって授業のなかで国際交流員のかたに来ていただいたとき、生徒の一人が親日派の子孫の財産没収についてどう思うかという質問を国際交流員の方に対して行った。国際交流員の方は、この法律が制定された背景についてふまえながら、やはり親日派の子孫の土地や財産を没収することに肯定的な答えをしておられた。もちろんこの法律が制定された背景には、この法律を支持する国民感情が韓国国民に多分にあるとい

うことであろう。過去と向き合いながら未来のことを考えていかなければならないのはわかっているが、この法律に釈然としない感情を抱く日本人は、自分もふくめて多いのではないだろうか。

二つめは、最近になって竹島問題についての韓国の姿勢が急速に強行になってきていることである。この最終稿を校正しているさなか、竹島周辺の海洋調査をめぐって日韓が緊迫した状況になった。海洋調査の問題自体は一時的には収まったかのように見えるが、その後韓国の盧武鉉（ノ・ムヒョン）大統領は、対日政策に対する特別談話として、竹島問題を歴史認識の問題であると問題とみなし、日本政府を強く批判する談話を発表した。竹島について「日本が朝鮮半島の侵略で、最初に奪い去った歴史の土地だ」とし、日本政府が懸念している竹島周辺の海底地名の韓国名への変更も当然の権利であると主張している。そして、「竹島（独島）問題を日本の歴史教科書歪曲、靖国神社参拝問題とあわせて、韓日の過去の清算、主権保護のレベルで正面から取り扱っていく」と明言し、この問題に対して一歩も引く姿勢はない構えを打ち出している。マスコミの報道によると、このような韓国政府の姿勢に対する韓国国民の支持率は90%を越えているということである。今後もこのような姿勢は一段と強くなっていくであろう。日本政府はどのように対応していくのか、気になるところである。

このような現状から、あるいは学習を終えて改めて感じるのが、これからの韓国との関係を考えていく上での歴史学習の重要性である。これからの日韓関係を考えていくために、「日韓関係の過去の歴史をしっかりとふまえて日韓の未来を考えていかなければならない」ということの重みが思った以上に大きいことを改めて感じている。そういった意味で、今回近現代の歴史学習において、日本の教科書に書かれている記述だけでなく、韓国側からみた歴史の見方を学習する場面を設定したことは、生徒たちがこれからの日韓関係を考えていくのに、有効であったと思われる。日本側からみた歴史の見方だけでは、日韓関係のさまざまな問題について多面的・多角的にとらえていたり、今後のよりよい関係を築いていくためのバランスのとれた判断をしていくことができにくいからである。このことはもちろん韓国の側にも言えることである。竹島問題が日韓関係に大きな影を落としたことは間違いのないところであるが、それを乗り越えて日本と韓国がよりよい関係を築いていくことは必ずできると信じている。そのためには、竹島問題などの日韓関係の問題について、歴史的分野の地理的分野の学習を工夫しながら積極的に取り上げていくことが必要である。そういった実践を、竹島を抱える島根県の中学校が、よりよい日韓関係を築くためにという一連の学習のなかでしっかりと積み重ねていくことが大切ではないだろうか。

参考文献

- 下条正男（2005）『竹島は日韓どちらのものか』東京、文藝春秋
 - 『フォトしまねNo. 161～特集竹島』（2006）島根県総務部総務課
 - 『「多文化共生社会のために」～在日韓国・朝鮮人アンケート調査結果から～』（2002）島根県総務部国際課
 - 尹学準監修 筒井真樹子編訳（2001）『韓国の教科書の中の日本と日本人』東京、一光社
 - 野村 進（1996）『コリアン世界の旅』東京、講談社
 - 『島根大学教育学部附属中学校研究紀要第41号』（1999）
- 大島 悟「国際社会における日本のあり方を追究する地理 学習の工夫～単元『日本と韓国のよりよい関係を築くために』の実践を通して～

（おおしま さとる 社会科 oshimasa@edu.shimane-u.ac.jp）